

(提案14)

公開シンポジウム「環境学から俯瞰するエネルギー問題」の開催について

1. 主催：日本学術会議環境学委員会環境科学分科会

2. 共催：公益社団法人化学工学会、日本農業工学会

3. 後援：なし

4. 日時：平成27年10月9日（金）13：00～17：15

5. 場所：日本学術会議講堂

6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

エネルギー問題の重要性は広く認識されてきており、特に震災後には国民の多くが共有できる持続可能なエネルギー利用社会の将来像への希求が高まっている。一方で、エネルギー問題を考えるにはエネルギー技術の多様化や一次エネルギー源をめぐる情勢の流動性、各エネルギー技術の持つ特性と相互関連など、多くの視点からの検討が必要であり、国民的な議論のプラットフォーム形成は容易ではない。この困難さは、エネルギー問題の考察においてエネルギー源や各エネルギー技術の持つ需要・供給・価格・安定性など多方面のリスクとメリットの評価が様々な立場から行われ、俯瞰的な視野を持ちにくいことによって一層助長される。

このような状況を踏まえ、本シンポジウムでは環境学からの俯瞰をキーワードとしてエネルギー問題の主要課題のいくつかについての講演とパネルディスカッションを行い、持続可能性と社会実装性の点でリアリティのあるエネルギー社会について考える。

8. 次第：

13：00 開会挨拶

大政 謙次\*（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

13：10～14：40

- 小宮山 宏\* (日本学術会議連携会員、株式会社三菱総合研究所理事長)
- 13 : 40～14 : 10
- 奥村 直士 (日本学術会議連携会員、早稲田大学環境総合研究センター教授)
- 14 : 10～14 : 40
- 橘川 武郎 (日本学術会議連携会員、一橋大学大学院商学研究科教授)
- (20分休憩)
- 15 : 20 パネルディスカッション  
モデレータ  
古山 通久 (九州大学稲盛フロンティア研究センター教授)
- パネリスト
- 小宮山 宏\* (日本学術会議連携会員、株式会社三菱総合研究所理事長)
- 奥村 直士 (日本学術会議連携会員、早稲田大学環境総合研究センター教授)
- 橘川 武郎 (日本学術会議連携会員、一橋大学大学院商学研究科教授)
- 吉田 英生 (京都大学大学院工学研究科教授)
- 安岡 善文\* (日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授)
- 17 : 00～17 : 15 閉会挨拶
- 阿尻 雅文\* (日本学術会議第三部会員、東北大学原子分子材料科学高等研究機構教授)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(\*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案15)

公開シンポジウム「心の先端研究の現在とこれから」の開催について

1. 主催：日本学術会議心理学・教育学委員会心の先端研究と心理学専門教育分科会
2. 共催：富山大学大学院医学薬学研究部(医学)心理学・認知神経科学教室
3. 後援：未定
4. 日時：平成27年10月10日(土) 13:00~18:10
5. 場所：日医工オーディトリウム  
(富山大学杉谷キャンパス内医薬イノベーションセンター1F)
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：

現代社会に生きる人間のこころについて科学的に探求し、様々なフィールドで直面する社会的諸課題に応える視点を培っていくことが大事な時代になってきている。本シンポジウムでは、最近注目されている共感性、心の時間、質感認識、顔認知、予測と意思決定、発達神経科学、法と人間科学、思春期脳と精神病理といった様々なテーマの中で、心理学を中心としたこころの研究がどのような役割を果たしているのかの現状を紹介し、今後の学際的ネットワークをつくる足がかりとしたいと考える。

8. 次第：

13:00 開会の辞

亀田 達也\* (日本学術会議第一部会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授)

13:10 共感性の進化・神経基盤 ー分子から認知的共感までー

長谷川寿一\* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授)

13:40 類人猿のこころの時間

平田 聡\* (日本学術会議連携会員、京都大学野生動物研究センター教授)

14:10 予測と意思決定の脳内計算機構の解明による人間理解と応用

坂上 雅道\* (日本学術会議連携会員、玉川大学脳科学研究所教授)

- 14 : 40 周産期からの身体感覚と社会的認知の発達の関連  
明和 政子\* (日本学術会議連携会員、京都大学大学院教育学研究科教授)
- 15 : 10-15 : 30 ( 休憩 )
- 15 : 30 質感認識の分野融合的研究における心理学的感覚研究の展開  
西田 眞也\* (日本学術会議連携会員、NTT コミュニケーション科学基礎研究所主幹研究員)
- 16 : 00 顔認知と文化、社会  
山口 真美\* (日本学術会議連携会員、中央大学文学部教授)
- 16 : 30 法と人間科学：子どもの証言と面接法  
仲 真紀子\* (日本学術会議第一部会員、北海道大学大学院文学研究科教授)
- 17 : 00 統合失調症の認知機能改善療法は神経可塑性にどこまで寄与するか  
松井 三枝\* (日本学術会議連携会員、富山大学大学院医学薬学研究部(医学)准教授)
- 17 : 30 総合討論  
(司会) 積山 薫\* (日本学術会議連携会員、熊本大学文学部教授)  
松井 三枝\* (日本学術会議連携会員、富山大学大学院医学薬学研究部(医学)准教授)
- 18 : 00 閉会の辞  
西田 眞也\* (日本学術会議連携会員、NTT コミュニケーション科学基礎研究所主幹研究員)

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

(\*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案16)

歴史教育シンポジウム「イスラームをどう教えるか」の開催について

1. 主 催 日本学術会議史学委員会、同歴史認識・歴史教育に関する分科会、  
日本歴史学協会

2. 日 時 平成27年10月17日(土) 13時30分～17時30分

3. 場 所 駒澤大学駒沢キャンパス 1号館 1-404教場

4. 委員会等の開催 開催予定なし

5. 開催趣旨

例年、日本学術会議史学委員会と日本歴史学協会との共催で実施してきている「歴史教育シンポジウム」である。

今回は、イスラーム問題に焦点を当て、歴史的・科学的にどのように捉えるべきか、という点に焦点を当て、報告と討論を行なうものである。現在世界的な問題となっている、イスラミック・ステイト(I S)の存在の背景にあるスラーム世界を正確に理解し、イスラーム社会は日本においてどのようなコミュニティを形成しているか、また高校教育においてイスラームの歴史がどのように教えられているのか、などの諸問題を議論する予定である。

6. 次 第

開会挨拶(13:30～13:35)

高埜 利彦\*(日本学術会議第一部会員、学習院大学文学部教授)

趣旨説明(13:35～13:50)

近藤 一成(日本歴史学協会歴史教育特別委員会委員長)

報 告(13:50～16:00)

店田 廣文(早稲田大学人間科学学術院教授)

「日本におけるムスリム・コミュニティの現状と課題」

三浦 徹(お茶の水女子大学文教育学部教授)

「イスラーム社会は何を語るか」

周藤新太郎（千葉県立東葛飾高等学校教諭）

「高校生はイスラームの歴史をどのように学んだか」

総合討論（16:10～17:20）

閉会挨拶（17:20～17:30）

木村 茂光\*（日本学術会議連携会員、帝京大学文学部史学科教授）

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

(\*印の報告者等は、主催委員会及び分科会委員)

(提案17)

公開シンポジウム「生態系計測・モニタリングの最前線」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分科会、環境学委員会環境科学分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：日本農業気象学会、日本生物環境工学会、日本農業工学会、生態工学会、JapanFlux（予定）
4. 日 時：平成27年10月23日（金）13：00～17：20
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定  
（平成27年10月23日（金）10：00～12：00）
7. 開催趣旨：

農地や森林などの陸域生態系は、大気環境の影響を受けるとともに、様々なエネルギー・物質交換を通じて大気環境を改変する機能（環境機能）を有している。気候や農業生産などの将来予測を行うためには、陸域生態系と大気環境との相互作用を計測し、モデル化することが必要である。近年の気候変動や、特に発展途上国で顕著な人為的な環境攪乱は、陸域生態系の脆弱性を高め、二酸化炭素の固定などの環境機能を悪化させることが懸念されているため、環境攪乱に対する生態系の応答を広域で高頻度にモニタリングするための衛星リモートセンシングが強く望まれている。この分野ではわが国の技術（PALSAR-2, GOSAT）が先行しており、国際的な期待が高まってきている。また、生態系の環境応答を野外環境で計測するための技術も進化してきており、生態系モデルの素過程の精緻化に大きく貢献している。本シンポジウムでは、陸域生態系のプロセス研究における計測手法・技術や広域でのモニタリングの「最前線」について紹介していただくとともに、関連した研究分野における研究の方向性などについて議論する。
8. 次 第：

13:00 開会挨拶  
真木 太一\* (日本学術会議連携会員、九州大学名誉教授)

13:05 趣旨説明  
平野 高司\* (日本学術会議連携会員、北海道大学大学院農学研究院教授)

講演：

司会：青野 光子\* (日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立環境研究所  
生物・生態系環境研究センター主任研究員)

13:15 水田生態系の環境変動応答の解明を可能とする開放系大気CO<sub>2</sub>増加(FACE)  
実験

林 健太郎 (農業環境技術研究所物質循環研究領域主任研究員)

13:45 農地における微量気体のフラックス計測：現状と展望  
宮田 明 (農業環境技術研究所大気環境研究領域領域長)

14:15 二酸化炭素安定同位体を用いた森林における炭素循環研究  
高梨 聡 (森林総合研究所気象環境研究領域主任研究員)

<休憩>

司会：青木 正敏\* (日本学術会議連携会員、明治大学非常勤講師)

15:00 ALOS-2 PALSAR-2 による森林分類・変化・バイオマスの観測  
本岡 毅 (国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 ALOS-2 プロジェ  
クトチーム開発員)

15:30 GOSAT データの陸域生態系研究への利用 — メタン放出量の時空間変動  
解析  
齊藤 誠 (国立研究開発法人国立環境研究所地球環境研究センター研  
究員)

16:00 生態系リモートセンシング — 細胞から植生へ、2次元から3次元へ  
大政 謙次\* (日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

<休憩>

16:40 総合討論  
進行：平野 高司\* (日本学術会議連携会員、北海道大学大学院農学研究院教授)

17:20 閉会挨拶  
橋本 康\* (日本学術会議連携会員、愛媛大学名誉教授)

9. 関係部の承認の有無：第二部・第三部承認

(\*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案18)

公開シンポジウム「人口減少社会と法—法哲学と労働法の見地から」の開催について

1. 主 催：日本学術会議法学委員会・人口減少社会と法分科会
2. 共 催：早稲田大学比較法研究所
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成27年10月28日（水）16：00～19：00
5. 場 所：早稲田大学9号館第1会議室
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨

法学委員会「人口減少社会と法分科会」の活動の一環として、その成果の一端を社会に還元する。また、人口減少問題に関するさまざまな意見に触れることによって、分科会の理論活動の深化が期待される。

8. 次 第：

16：00 企画趣旨説明

吉田 克己\*（日本学術会議第一部会員、早稲田大学大学院法務研究科教授）

16：15 「法哲学から見る人口減少社会（仮題）」

山田八千子\*（日本学術会議連携会員、中央大学大学院法務研究科教授）

17：00 「人口減少社会と雇用（仮題）」

水島 郁子\*（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院高等司法研究科教授）

17：45—18：00 （ 休憩 ）

18：00 総合討論

司会：

吉田 克己\*（日本学術会議第一部会員、早稲田大学大学院法務研究科教授）

19：00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

(\*印の講演者は、主催分科会委員)

(提案19)

公開シンポジウム「by 機械学習、of 機械学習」の開催について

1. 主 催：日本学術会議数理科学委員会数理統計学分科会、情報学委員会 e-サイエンス・データ中心科学分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：統計関連学会連合、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 統計数理研究所、電子情報通信学会情報論的学習理論と機械学習研究会 (IBISML)
4. 日 時：平成27年11月24日(火) 9:50～16:00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：

近年、膨大かつ多様なビッグデータから新価値を生み出すための分析技術として、数理統計に基づく機械学習技術が有望視されている。

本シンポジウムでは、ビッグデータの利活用により社会課題解決に貢献する「by 機械学習」、そして、既存技術では実現困難なビッグデータ分析を実現可能にするための機械学習技術の高度化に貢献する「of 機械学習」の両面で最近の研究動向を概観すると共に、機械学習研究の進むべき方向性について議論する。
8. 次 第：

司会：  
松井 知子\* (日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所モデリング研究系研究主幹・教授)

開会の挨拶 9:50～10:00  
清水 邦夫\* (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学名誉教授、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所統計思考

院特命教授)

「of 機械学習」研究について 10:00~11:30

- 講演 1 (30分) : 「弱教師付き学習の新展開: 少ない情報から精度良く」  
杉山 将 (東京大学大学院新領域創成科学研究科教授)
- 講演 2 (30分) : 「構造的スパース性を用いた機械学習とその離散構造」  
河原 吉伸 (大阪大学産業科学研究所准教授)
- 講演 3 (30分) : 「ベイズ的最適化に基づく機械学習の実験計画: 機械学習 for 機械学習」  
佐藤 一誠 (東京大学情報基盤センター助教)

昼食: 11:30~13:00

「by 機械学習」研究について 13:00~14:30

- 講演 1 (30分) : 「機械学習による科学的発見のための仮説生成とその信頼性評価」  
竹内 一郎 (名古屋工業大学大学院情報工学科教授)
- 講演 2 (30分) : 「機械学習による機械の学習: 自動運転からロボットの協調生産まで」  
岡野原大輔 ( (株) Preferred Infrastructure 博士・取締役副社長)
- 講演 3 (30分) : 「普通の民間企業が抱く機械学習への期待と不信」  
鈴木 良介 ( (株) 野村総合研究所主任コンサルタント)

休憩: 14:30~14:45

パネルディスカッション「機械学習研究の進むべき方向性」

14:45~15:45

パネラー8名:

上田 修功\* (日本学術会議連携会員、NTT コミュニケーション科学基礎研究所機械学習・データ科学センタ代表)

松井 知子\* (日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所モデリング研究系研究主幹・教授)

杉山 将 (東京大学大学院新領域創成科学研究科教授)

河原 吉伸 (大阪大学産業科学研究所准教授)

佐藤 一誠 (東京大学情報基盤センター助教)

竹内 一郎 (名古屋工業大学大学院情報工学科教授)

岡野原大輔（（株）Preferred Infrastructure 博士・取締役副社長）  
鈴木 良介（（株）野村総合研究所主任コンサルタント）

閉会の挨拶 15:45～16:00

上田 修功\*（日本学術会議連携会員、NTT コミュニケーション科学基礎研  
究所機械学習・データ科学センター代表）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(\*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案20)

日本学術会議北海道地区会議学術講演会「貧困と人の育ち（仮題）」の開催について

1. 主 催 : 日本学術会議北海道地区会議、心理学・教育学委員会法と心理学分科会、心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会
2. 共 催 : 北海道大学
3. 後 援 : なし
4. 日 時 : 平成 27 年 11 月 15 日(日) 13:30~17:00
5. 場 所 : 北海道大学学術交流会館小講堂 (札幌市北区北 8 条西 5 丁目)
6. 分科会の開催 : 開催予定なし

7. 開催趣旨 :

日本の貧困率は年々上昇し、貧困世帯で育つ子どもの割合は、いわゆる先進国のなかでも上位に位置します。出産、育児、教育、就労といった人の成長に、貧困はどのような影響を及ぼすのか。何が問題で、どのような解決・支援が可能なのか。

このシンポジウムは、心理学、社会学領域からのエビデンスを踏まえ、貧困問題と人の育ちを考えるものである。

内田伸子氏には貧困と子育て、松島京氏には施設児童、特に外国と関わりがある児童の育ち、松本伊智朗氏には貧困の中での子育てと貧困の再生産、そして、間宮正幸氏には若者の就労問題とその支援についてと、育ちの過程に沿った貧困の問題について、実証的資料に基づき議論を行う。

8. 次 第 :

司会 :

仲 真紀子\*(日本学術会議第一部会員、北海道大学大学院文学研究科教授)

13:30～13:40 挨拶

上田 一郎\*(日本学術会議第二部会員、北海道大学理事・副学長)

13:40～14:10 「日本学術会議の活動とシンポジウムへの期待」

大西 隆 (日本学術会議会長・第三部会員、豊橋科学技術大学学長)

14:10～14:45 講演「貧困と子育て（仮題）」

内田 伸子\*(日本学術会議連携会員、十文字学園女子大学理事・任用教授)

14:45～15:20 講演「施設児童の育ちの支援（仮題）」

松島 京\* (日本学術会議特任連携会員、近大姫路大学教育学部准教授)

15:20～15:30 休憩

15:30～16:05 講演「貧困の世代的再生産（仮題）」

松本伊智朗 (北海道大学大学院教育学研究院教授)

16:05～16:40 講演「若者の自立と労働 -ハローワーク相談事例から-  
(仮題)」

間宮 正幸 (北海道大学大学院教育学研究院特任教授)

16:40～16:55 総合討論、質疑応答

16:55～17:00 閉会の挨拶

仲 真紀子\*(日本学術会議第一部会員、北海道大学大学院文学研究  
科教授)

## 9. 関係部の承認の有無：第一部、第二部承認

(\*印の講演者は、主催地区会議構成員又は分科会委員)